資料３

平成 25 年 12 月 11 日

木づかいガイドライン作成関連資料

1　作成の目的

① **矢作川流域圏の木材利用**を３県の住民・事業体・行政が一体となって推進するきっかけづくり

② 矢作川流域と３県の住民に「**私達の身近に素敵な木のある暮らし**」を勧める

③ 水資源安定供給の概念である「流域はひとつ　運命共同体」の概念を、流域の木材利用推進にも適用し、**地域経済の発展や持続可能な地域づくりに結びつける**

④ 民間・事業体主導・共通認識化による木材利用推進をテーマとした**持続可能な地域づくりに向けたチャレンジ**

⑤ 流域内の住民・行政・事業体が一体となって**「川下から川上まで真の流域林業・地域活性化」の構築**を目指す

⑥ ガイドライン作成に伴う**流域の課題の掘り起こし・整理・人の輪育成・チャレンジ・提案**

2　森林組合関連事項

県名	森林組合名	H23 素材生産量 (㎥)	出荷先	製材品 換算 50% (㎥)	関連工務店
愛知県	豊田森林組合	21,075	自社（愛知） 本州市売（愛知） 大口（愛知） ホルツ三河（愛知）	10,538	愛知県
	岡崎森林組合	3,984	本州市売（愛知） ホルツ三河（愛知） 西村木材（三重） ヤマガネ商事（愛知）	1,992	愛知県 三重県
岐阜県	恵南森林組合	4,355	東濃共販所（岐阜） 西垣（岐阜） 東海木材総合市場（愛知）	2,178	愛知県 岐阜県
長野県	根羽村森林組合	6,031	自社（長野） 東濃共販所（岐阜） 東海木材総合市場（愛知）	3,016	長野県 愛知県 岐阜県
計		35,445		17,724	

各森林組合の共通認識

① 矢作川下流域で地域材利用による木づかいが進むことにより、持続的な組合経営が可能となる
② 持続的な組合経営が可能となることから、地域の雇用・拡大再生産・地域産業の成立・若者定住に結びつく
③ 同時に、上流域の森林整備が継続的に推進される
④ 上流域の森林整備が推進されることにより、森林の公益的機能が維持できる
⑤ 森林の公益的機能の発揮により、下流域の水資源の安定供給が可能となる

以上の理由から各森林組合は、下流域での木づかいが推進されることを望んでいるため、**木づかいが流域で推進されるようなブレークスルー（革新的な取り組み・仕組みづくり・サプライズ）に結びつくような「木づかいガイドライン」を作成したい。このため、素案の内、特に⑤、⑥、⑦、⑩の項目に力を入れたい。**

同様に、「木づかいガイドライン」を木づかいの理想的な形を示して導くことに重点を置き、これを手に取った方が新たな木づかい推進のヒントとなるよう当ガイドラインのオリジナル性にも留意したい。

現時点での内容（案）

①私たち矢作川流域住民にとって木づかいの意味とはなんだろうか
②身近な生活空間の中にある豊かな木のある暮らし・木の魅力
③子供から大人まで伝えていきたい木と森とそこに活躍する人たち（事例集等と関連付け）
④木づかいを支える事業体のコンセプトと活動
・森林組合　・製材所　・工務店　・建築士　・木材市場　・クラフトマン
⑤流域で使いたい魅力的な木の製品・それを生み出す魅力的な仕組みと活動（提案）
⑥今進められている木づかいのための様々な研究テーマ・成果・研究者紹介
⑦流域の木づかいのヒントとなる様々な木づかい事例
・個人地域材木造住宅　・地域材公共施設　・森林空間利用　・木育アイテム
⑧木づかいを進めるための様々な支援策と特典
⑨こうして楽しむ木と森林空間　流域で取り組む木育プログラム　木のマイスター制度
⑩木の利用推進による持続可能な地域づくりに向けての提案
ライフラインを支える森づくり→森づくりを進める木づかい→木づかいによる生業の成立→生業の成立による持続可能な地域づくり・地域活性化・地域産業山村消滅の回避

3　ブレークスルー（革新的な取り組み・仕組みづくり・サプライズ）のためのブレーンストーミングのテーマ

木づかいガイドライン作成にあたって部会メンバー等で話し合いたいこと

①　県・市町村の枠を外して木づかい推進を進める姿勢
②　流域材活用を最優先とするが県産材概念にとらわれず国産材活用を推進していく姿勢
③　岐阜県の岐阜認証材制度と長野県の信州認証材制度の共有化（ＪＡＳと同等）
④　愛知県での岐阜認証材制度と信州認証材制度の適用（ＪＡＳと同等）
⑤　理想的な市町村木材利用指針の提示・年度別施設計画表の追加による木づかい推進
⑥　理想的な企業木材利用指針の提示・年度別施設計画表の追加による木づかい推進
⑦　市町村等における公共施設建築分離発注（材料と施工）方法の提案
⑧　間伐材搬出径級に応じた部材提案または部材提供を意図した森林情報管理
⑨　各森林組合の長所学習会の開催よる組合体力・連携強化の取り組み
⑩　流域圏の木づかいを推進する木材コーディネイターの検討
⑪　スギダラ・ヒノダラ・矢作川　流域圏をヒノキだらけ、スギだらけにする活動提案
⑫　同活動に伴うデザインコンテストの開催
⑬　木材市場のパイロット価格化に向けたシステム検討

現時点での協力者

愛知県
　愛知県農林水産部林政課
　愛知県木材組合連合会

岐阜県
　岐阜県林政部県産材流通課
　岐阜県産直住宅協会
　（株）鷲見製材

長野県
　長野県林務部信州の木振興課
　県産材販路開拓協議会

①　国・県・市町村の職員の確保について

区　　分	森づくり（悩んでいること）	木づかい（悩んでいること）
国	・森林経営計画の推進 ・流域林業の推進 ・間伐推進 ・国有林の意義 ・国民にとっての森林の在り方	・自給率向上 ・間伐材搬出向上 ・木づかい推進 ・木材利用ポイント事業 ・公共施設への木材利用推進

県	・間伐推進 ・森林税の活用 ・森林経営計画の推進 ・森林のゾーニング ・県民にとっての森林の在り方	・市町村木材利用指針策定 ・流域林業の推進 ・自県の木材利用推進 ・製材工場等の水平連携 ・木造住宅、公共施設への利用 ・公共の場での木の快適性ＰＲ ・工務店の育成 ・木育推進 ・新製品開発 ・木質バイオマス利用推進
市町村	・森林経営計画の推進 ・間伐推進 ・壊れない作業道開設 ・林業専用道開設の是非 ・架線集材の有効性 ・林地災害の未然防止 ・B、C材の活用 ・林内の未利用材活用 ・木の駅プロジェクト ・市町村民参加の森づくり	・地域材の活用 ・市町村木材利用指針策定 ・木材製品の見方、使い方の基本 ・木材製品使用の是非 ・分離発注の方法 ・木質バイオマス利用推進 ・学校など教育関連分野での木づかいと木育
研究機関等	・次世代に向けた森づくり ・更新の考え方 ・生態系サービス ・里山の総合的なコーディネイト ・里山資源活用と地域活性化	・重ね梁 ・積層材 ・多い樹種、多い径級の製品化 ・建築部材の共通化 ・スギダラ、ヒノダラ

ヒント　森づくり・木づかいに関して、問題点、課題、実績づくり、政策提案等、悩みを抱えている国・県・市町村担当者は多いと考えられる。彼らは、多かれ少なかれ悩んでいるので、どうにかしたいという意志があるはず。

そうした意志のある方を、仲間として確保できれば私達のテーマを逆に実現性の高いものとしてつくり上げる必然性や、テーマそのものを彼らが利用できる可能性も高い。

さらに我々一般市民は、専門でないがゆえに、逆に感度的に感じる望ましい地域の森林の在り方や、身の回りの木づかいの在り方について卒直な意見を述べ、これらの視点をガイドラインに盛り込むことで、庶民も感じ取れる、読んで何かに気が付き、行動を起こせるような、心のスイッチをオンにするようなガイドラインになるのではないか、と考える。

② 年間計画について

日　程	区分	内　　容
6 月 29 日（土）	全体（根羽）	皆を木の世界に誘うためのブレーンストーミング
7 月 19 日（金） 7 月 20 日（土）	森＋木	木づかい推進のブレークスルーをするためのブレーンストーミング ①　～　⑨　どうしたらできるか
8 月 17 日（土）	全体（豊田）	木づかい推進のブレークスルーをするためのブレーンストーミング ①　～　⑨　どうしたらできるか
9 月 13 日（金） 9 月 14 日（土）	森＋木	木づかい推進のテーマの絞り込み 役割分担決め
10 月 12 日（土）	全体（恵那）	突っ込みゼミ 着地点・決めのポイント出し
11 月 8 日（金） 11 月 9 日（土）	森＋木	突っ込みゼミ 着地点・決めのポイント出し
12 月 11 日（水）	全体（岡崎）	ガイドラインイメージ創出 具体的成果を期待する先進的コンセプトターゲットの拾い出し
1 月		
2 月		

木づかいガイドラインはじめの一歩
皆を木の世界に誘うためのブレーンストーミング

原点 1

1　皆さんが森や木を好きになったきっかけや原体験、感動した場面はなんでしょうか
2　その体験を他の方に知ってもらったり、プレゼントしたいと思いませんか
3　そのプレゼントはどうしたできるでしょうか

原点 2

1　今皆さんが森や木を前にしてこれではいけないのでは、もっとこうなればなぁ、こんなふうにすればいいのに、と感じることはありますか
2　そんなふうに感じたことを、他の方にも伝えて何か行動を起こしたいとは思いませんか
3　どんな行動に取り組んだらよいでしょうか

原点 3

今あなたは大好きな森や木について、素敵な本を作ろうとしています。その本を読むと誰でも眠っている心のスイッチが入ってしまいます。すると、心の中が明るく温かくなって、そして歩もうとする道を照らします。皆が森や木のファンになってしまうような、何か森や木に会いに行きたくなってしまうような、皆で行動を起こしたくなってしまうような、何か素敵な時間が持てそうな予感がする、あなたがこれから作りたい素敵な本の内容とはどのようなものでしょうか。もし、考えるのが難しかったら、どんなことが書かれている本だったらあなたは購入するでしょうか。

7 月 20 日　第 10 回　山部会　原点 1 のブレーンストーミング意見

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- 森や木を好きになったきっかけや原体験・感動した場面と、その体験を他の方に知ってもらうにはどうしたらよいか」について意見を出し合いました。主な意見は下記です。

- 幼少の頃から木工作が好きで、人工林の間伐を通じて森林にはまっていった、（原田）
- 森が身近な地域で育った。積木がぶつかり合うときに出る音等、木のもつ感覚がよい。（城田）
- 子供にとっては、森の手入れに使う道具などはスリルがあると面白い。（斉藤）
- 小学生の頃、工作で木工玩具を作り、道具の使い方を覚え、その後遊びが本格化した。（石原）
- 幼少の頃、家族で行く山登りが好きだった。木の匂いは安心感を与えるので好き。（長谷川）
- キャンプ時の悪天候に木の下で雨宿りをした際に、安心感を覚えたことが印象的。（森）
- 鎌倉の山と海で育つ。山と海には生きていく知恵が沢山あると感じている。（黒田）

- 生き物と木が好き。木のよさに魅せられ、少し前に自宅を間伐材で張り替えた。（沖）
- 北海道育ち。森には近寄ってはいけないルールがあったが隠れて遊ぶのが楽しかった。（南木）
- 東京都内でも奥多摩や飯能の山に親しみながら過ごした。小学生の時に作った木工作を先生に褒められたことが印象的。都会の人に山に来てもらってイベントなどをするとよい。（蔵治）
- 学生時代、狭山丘陵で懐かしい風景に出会う。木に抱きつくほど感動し、研究者を志す。（洲崎）
- 子供の頃、犬小屋を木で制作した。登山が好きで、山頂から見る風景に感動している。（今村）

- 次回は「森や木がこんなふうになればいいのに」と感じることや、「そのために取り組む内容」について自分なりに考えておいて頂きたい。（今村）
- 映像、写真、子供の頃に自分で作った工作品などがあると議論が盛り上がる。（今村）

8 月 17 日　第 11 回　山部会　原点 2 のブレーンストーミング意見

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインの作成のはじめの一歩として、「森や木を前にして、これではいけないので、もっとこうなればなあ、こんな風になればいいのに」と感じることについて、ブレーンストーミング方式で意見を出し合いました。主な意見は以下です。

【木づかいガイドラインについて】
- 職業柄、木づかいガイドラインの作成は形式から考えてしまうので、今回のやり方は、消費者目線・利用者目線で考えられるためよい。（原田）
- 矢作川流域に住んでいることの意味は、流域市民の暮らしの質が上がる、価値が上がるということにつながること。（相川）
- ガイドラインはみんながわかるものがないとだめ。書店でマイサジが入ったキットを売るなども面白い。（城田）
- 立っている木に親しめる機会があるとよい。森を明るく。歩いて楽しい林にできればよい。（洲崎）
- 木づかいガイドラインと森づくりガイドラインはリンクしていないといけない。（黒田）
- 工務店とのブレーンストーミングを通じて意見交換などができるとおもしろい。（蔵治）

【木材利用の推進について】
- 旭の工芸館から依頼があり、木や森に関することを子供たちに伝えるイベントをした。子供は将来性があるので、木の良さをわかってもらえるとよい。木材でつくられた小学校などを通じてＰＲしたいが、森林組合だけで行うのは困難。（松井）
- 人間のライフサイクルを考えると、どの時代も同時期に同じものを購入しており、木材も今後、チャンスがある。（相川）
- 総無垢のベビーベッドがある。世の中にはファーストウッドという考えもある。（蔵治）
- ファーストウッドで地域振興している上飯田の例がある。（原田）
- 机、ランドセルなど成長に応じて木を用いた製品を使ってもらう手もある。（丹羽）
- 北海道のエコビレッジでは、自分達で使うものを自分たちで作る。生活の中にあるものは意外と自前でできる。（城田）
- 普通の人が作れるものを品目に入れるべきだし、そのようなものの中には雇用を生み出すのはたくさんある。（城田）
- 木の駅プロジェクトに関連し、ちょっとした木工が可能となる機器をおいておければよい。（南木）
- 日曜大工は道具をそろえればその気になればできる。（丹羽）
- リフォームへの補助金（城田）
- 豊田森林組合では、工具そのものを貸し出すことはしないが、組合で実施する体験学習に参加した方には、使ってもらっている。講座が終わった人がまた使いたいといってくることもある。（松井）

☆出された意見を発展的に楽しく木づかいガイドラインに活かせるように考えてみました

原点１の意見からは原体験を得られる環境づくりの多くのヒントがあります

① 多くの方に自然や人工林での五感的な、感動的な体験があって、これが今でも心の中にしっかりと残って原体験・原風景となっている。また、こうした体験が現在の森や木に関連する職業や、地域を元気にする仕事に就くきっかけになっている、とも言える。

従って、矢作川の流域の山・川・海で子供たちの原風景や原体験となる場面を提供してあげられると良い。→どこにそのような感動が待っている場所と時間があるのでしょうか。

② 森に入る時に自分なりきの準備をしていた。何らかの道具を持って森や山に向かうことは、とてもわくわくする感じがある。自分の生きた時間の始まり、とも言える。

従って、何か自然の中に入っていく時、何か身支度をし、道具を使うことの楽しみがあるような、身支度を整え道具を使いこなすことがかっこいい、という感じを子供たちに与えたい。→どんな身支度と道具が子供たち他に相応しいのか。地下足袋を履いて、鉈を使いこなせるようにするにはどうしますか。何をやってもらいましょうか。メーカーに子供用スペシャルをオーダーしますか。

③ 木工作にのめり込んだ楽しい体験を持つ方が多かった。自分の技能で扱える木材という材料は魅力的である。そして、その工作を褒められたことも忘れられない。

従って、矢作川流域の様々な木を使って、簡単なものから技術が必要になるものまでの木工作キットや作り方を教えてあげたい。→材料はどこで入手しますか。どんな材料が使えますか。どんなキットを作ってもらいましょうか。どこで作りますか。

④ 家族で山登りをして安心して楽しめ、しかも山の匂いが忘れられない。自然の匂い・香りは印象的でいつまでも素晴らしく安心感を与えてくれる。また、山からの眺めが素晴らしくて山の世界に魅せられてしまった。

従って、自然への興味を高め導く活動として登山はひとつの原点となる。自然の中の真っただ中に一日中、安心して山登りを楽しめるようにしたい。→どんな山を登ったらよいでしょうか。道中に魅力的なものがあふれていますか。そこにどんな感動が待っているのでしょうか。家族で楽しめるコースはありますか。新たなコースを開拓しますか。

⑤ 山の中で雨にあっても木が守ってくれて安心感があった。自然のふところに抱かれる感じが好き。

従って、山に抱かれる感じ、安心して山の中にいられる感じを教えたい。→山の中で安心して時を過ごし、山の趣を安心して堪能できる場所やアイテム例えば、峠や岩小屋、東屋、テント、タープ、ウッドデッキ、その他の快適アイテムを必要な個所に設けましょう。どんな個所を教え、どこに何を設置すべきでしょうか。

⑥ 山と海からは生きていく知恵をもらえる。海を身近に育ったので、山と海があれば海に魅かれてしまう。このことは、子供の頃の原体験がいかにずっと心の中に残ることになるかのひとつの証し、とも言える。

従って、山と海で遊ぶことを通して、自然に身につく知恵を身につけさせてあげたい。教えるというより気がつかせてあけたい。どうやって遊ぶか考えさせよう→海や山で子供たちを自由にさせておくことが必要か。敢えて教えないが、さりげなくやって見せてあげるか。その場所をどこにしますか。

⑦ 生き物や木が好き、という感じは子供ならではの感度であり、山や川や海で生き物と出会えるような環境が欲しい。

従って、山・川・海を通して、ここにいくとこんな生き物に出会えるというような情報を提供してあげたい。森や木を含めて自分達と同じ生き物が存在していることを実感させてあげたい。→どこにいくとどんな生き物に出会えるのでしょうか。

⑧ 子供時代に自分の力で山に行ける環境であったことが、現在の自分に結びついている。

従って、子供時代から自分達で考える旅を経験させたい。そうすることで、自分で考えて行動するような自立心や探究心を養いたい→子供たちでできる、あるいは流域住民の協力による海から源流部への旅など企画できると面白い。海から源流部へ、または源流部から海へサイクリングロードは作れますか。自転車ショップの協力は得られますか。木のベンチは必要ですか。途中の川べりで東屋は作れますか。

⑨ 丘陵地帯などの日本的な懐かしい風景にとても心を打たれてしまったことが、今の自分に結びついている。

従って、恐らくごく普通の農山村、川、海の風景であっても、夕暮れ時や四季の移ろい時など、急に風景が輝きだす場面がある。それは心の中にしっかり焼きつけられて、故郷や地域を愛する心を育むことにつながる。→子供に見せてあげたい風景を見つけましょう

⑩ 自然や森の神秘性を感じられる心、自分達だけの秘密基地など、子供が自ら感じとれる面白い要素を楽しんでいる。

従って、子供たちが自由に楽しめるような森林空間などを設置できるとよい。少し冒険的な要素を持った森であるとか、神秘的な要素を持った森であるとか、意図的な森林空間利用を考えたい→森の持つ神秘性やわくわくする冒険的な要素を持つ森林はどこにあるでしょう。そんな森林空間を演出しましょう

☆出された意見を発展的に楽しく木づかいガイドラインに活かせるように考えてみました

原点２の意見からはガイドラインの性格や盛り込むべき内容について多くのヒントがあります

① 利用者目線や消費者目線からのガイドブック作成に意義がある。利用者にとってどのような情報に魅力があるのかがポイントである。

② 流域市民の暮らしが上がる・価値が上がることに結びつける。ガイドラインのおかげでライフスタイルの質が上がった、となるようにしたい。

③ 市民にとってわかりやすいガイドブックであることや、少しオシャレでもよい。ある意味で行政的でない面白さが必要である。

④ 木や森を身近に感じられるような案内や活動提案があると良い。様々な視点から森や木と接することができるので、それを紹介したい。聴診器で木の音を聴くのも、そうした道具があれば楽しめる。

⑤ 市民目線を含めて、工務店などの方とのブレーンストーミングを行い、もっと専門家集団の考え方や存在を身近にしたい。私達が普段、木造住宅に感じる魅力や木づかいを推進する考え方を話し合いましょう。

⑥ 木や森の専門家による木育活動が大切であるけれど限界があり、地域的に取り組めるような何らかの仕組みが必要である。行政や教育委員会とのの協力等により、もっと意図的なカリキュラムはできるはず。

⑦ 人間のライフサイクルに併せて購入しているものは常に同じ傾向で一定の需要がある。これをもっと意図的に流域環境教育も含めた仕組みとして展開できると木づかいが常に一定の需要を確保しつつ進行する。学童の成長と共に木づかいを進めていく考え方も自然であり、行政や教育委員会との連携も図りたい。

⑧ 子供の頃から木に親しむ環境や、ファーストウッドという考え方が流域に定着すると良い。地域住民の木づかいに対するセンスを向上させるような機会を創出したい。

⑨ 生活空間で身近に使うものを自ら作成できるようなお店や仕組みができると木づかいは進むと考えられる。そうした木製品を行政や地域的な仕組みで供給できると雇用が生まれる。

⑩ 木の駅プロジェクトは山村の集落を中心として薪づくり等を行うため、集落の公民館等がひとつの交流の場としても成立する可能性が高く、そこに日曜大工の道具等があれば簡単な木製品がそこで作れて、木づかいの推進に結びつく。

⑪ 今後、新築着工住宅の減少が見込まれる中でリフォームや内装材の販売は木づかい推進に結びつく大きなポイントであると考えられる。

⑫ 材料と道具、作り方などがわかれば今以上にもっと木と接して物作りに取り組む人が増えると考えられる。小学校の工作室の日曜教室や開放等、こうした機会や場面を地域でつくりあげていきたい。

どんな木づかいガイドラインをつくりましょうか（イメージ案）
～人生を楽しみ愛する家族と共に幸せに暮らす
森や木とそれを育む矢作川の流れ共に生きるライフスタイルへの誘い
矢作川ディズ～

森や木とそれを育む矢作川の流れ共に生きるライフスタイルはとても素敵です。身近な生活空間の中に魅力的な木の製品をたくさんとりいれてみましょう。矢作川の流れを見つめ、自然の息吹に耳を傾けてみましょう。愛知・岐阜・長野の 3 県を流れる矢作川流域圏を対象としたこの木づかいガイドラインには、そんな森や木の魅力や、それを育む矢作川流域の自然環境に出会い、流域に暮らすひとり一人が未来にむけて互いに関わり合いながら、豊かで魅力的な地域社会を目指して活動していく（楽しむ）ヒントがたくさん書かれています。

この本を作った私たちは、森や木の魅力や矢作川の自然環境をたくさんの方々に伝え、森や木や矢作川の自然環境と触れ合うことで市民の輪が広がり、そのことで地域が元気になっていくことを願っている一市民です。それぞれの様々な立場や経験から、森や木や矢作川の流れに対する愛情や想いや妄想もたっぷりこめて、矢作川流域に住む方々のために、もっと森や木を好きになろうよ、もっと地域の木を使ってみようよ、もっと森や木と共に生きている人達と友達になろうよ、そして地域に住むひとり一人が矢作川の自然環境の素晴らしさを共有し、皆で未来に向けて魅力的な森・川・海・街になるようにアクションを起こし育てていこうよ、という考え方を基本にして市民の目線からこの本を作りました。

この本を読むときっと、あなたのライフスタイルが素敵な森や木の製品に彩られることになるでしょう。訪ねてみたくなる森やお店、森や木と共に生きている人と直接会って、話してみたくなることでしょう。もっと多くの同じ気持ちを持つ仲間と出会って、魅力的な地域づくりに参加してみたくなるでしょう。そんなことを通して、あなたの心が今よりもっと明るく朗らかにそして大きく広がって、森や木とそれを育む矢作川の流れと共に生きていく素敵なライフスタイルに目覚められることを期待しています。

こんなライフスタイルは、きっと私たちの暮らすこの矢作川の上流から下流に暮らす人々の交流や結びつきを高めることになるでしょう。今まで以上に流域に住む人々への尊敬や感動、そして地域に対する思いやりの心、協力しあうことの大切さに気がつくことになるでしょう。こうしたライフスタイルの基本となるような、地域とそこに暮らす人々と共に生き愛する気持ちが、矢作川の流れを地域の心の絆として、私たちにとって本来あるべき、そして未来に亘って暮らしやすい持続可能な流域を作り出していくグッドスピリットであることを確信しています。

私達の故郷の源である矢作川の流れを見つめ、いつまでも美しい森と川と海に囲まれて人生を楽しみ、愛する家族と共に幸せに暮らすことができるように、今こそ流域に暮らすひとり一人の住民の意識改革から、この豊かな自然環境を持続可能な財産として皆の手で育み、ずっと暮らしていたくなる魅力的な矢作川流域的生活空間「矢作川ディズ」を創り上げていきましょう。

◎どんな木づかいガイドラインにしますか（イメージ案）

①読むと**行動したくなる**本

②読むと**人に会いたくなる**本

③読むと**人に話したくなる**本

④読むと**人にあげたくなる**本

森　ここに**こんな森**がある

好きな木のある森

お薦めの木のある森

記念樹の森（植栽できる場所がある・マイツリーにしてもよい）

矢作川演習林・観察林・サスケ谷・針広混交林

木　ここに**こんなお店**が　こんな**素敵な木製品**

店　**流域住民と仲良くなれる店　「矢作川ディズ」なお店　木工作のできるお店**

道　休める緑陰樹の道　矢作川源流ライン　渓谷と滝の道　マイナスイオンの道

人　ここに**こんな人**が　**生き方　こだわり**　ポリシー　苦悩　失敗　挫折　モチベーション　色々失敗はあるがモチベーションを失わず**明るく前向きに人生を楽しんでいる感じ**　深く矢作川の自然環境を愛している　**志のある一般人**

（事例集とリンク　ただし個人紹介を多くして人の輪を広げる感じで）

取組　ここで**森づくり・木づかいの市民参加**ができる

ここで**木の製品を作れる　木工作**ができる

ここで**森づくり・木づかいの持論を展開**できる

ここでこんな**木の取り組みをしている　市民編　行政編　業界編　研究編**

ここでこんな**森や木の取り組み計画があって参加**できる

木の駅プロジェクトに参加できる

木づかいの未来に向けた市民による取組を提案できる

木づかい（森づくり）を進める提案　市民編　行政編　業界編　研究編

矢作川絆事業　例　全河川沿香嵐渓プロジェクト

全河川沿緑陰サイクル・ランロード

本　この本（資料）を読んでほしい　ブック（資料）レビュー

この本で人生が変わった　変わる　市井の人たちが勧めるから魅力がある

⑤ 読むと市民として参加できる本

⑥ **読むとライフスタイルに影響**を与えられる本

⑦ **読むといいものと出会ったことを実感**させられる（わくわくする）本

⑧ 自分たちが**作っておいて良かった**思う本

⑨「矢作川ディズな人たち」を定義してしまう本（イメージ）

いつも調査してしまう　やたら人の輪がある　議論ずき　酒ずき

自然の中に身をおきたがる　やたら盛り上がる　木の製品を使わせようとする　やたら山や川や海のスペシャリストが多い　子供の心を持った大人が多い　夕焼けを

見ると涙ぐんでしまう　発信できる生き方をしている人が多い　こだわりの人ばかりだ　イナバウワーができてしまう　山と川と海をまとめて楽しんでしまう　それも生態や環境負荷についてもよく知っている　自分達で住みやすい環境を作ってしまう

9 月 14 日　第 12 回　山部会　原点 3 のブレーンストーミング意見

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

今回は前回に引き続き「木づかいガイドラインはじめの一歩」として、大好きな森や木についての素敵な本をガイドラインに見立て、参加者の方々が「これから作りたい素敵な本の内容とはどのようなものか」について意見を出しました。

また、第 10 回、第 11 回山部会 WG で行ったブレーンストーミングの結果についてもふりかえり、今後、どのようなガイドラインを作っていくか話し合いました。

【木づかいガイドラインのイメージについて】

- 山の暮らし、森の暮らし、木のある暮らしという点では音の風景というものが強い。木を切る音、薪を割る音がすると冬がやってくるという感じする。（黒田）
- 山の中で田んぼ仕事をしていても木のざわめきなどがすると寂しい感じがしない。最近は木造のいい建築物などが減ったことときたが、日本人はこの 100 年間で木の価値を知らないまま作り替えてきた印象もある。（沖）
- 音の風景に加えて木の匂いや森らしい癒される絵などがあれば、視覚に訴えかけでくると同時に心のスイッチが入る。また、木や森に関する世の中の誤解を解消するようなネタが、本の中にコラム的に入っていると面白い（長谷川）
- かつては木造２階建ての小学校があった。そういうのを見ると懐かしい気持ちになる。（後藤）
- 森林の減少や重要性について日常生活でなかなか触れられないのでそのあたりを本の中で訴えられるとよい。（西原）
- プロの方が知っているマニアックな内容があると取り付きやすい。（森）
- トトロなどのアニメを通じ、木や森を知った。森の不思議なところをドラマやアニメで表現することは有効だと思う。（石原）
- 心のスイッチは魚釣りのときに入る。明らかに魚が釣れそうな雰囲気がある場所を見つけるとワクワクする（南木）
- 学校は学問を教えるところではなく、感性を教えるところだと言われている。人工物であるコンクリートで造られたマッチ箱のような校舎で感性が養われるわけがない。その意味で「近代化・人工物が優れているというところ」をこれから改めて見直していく時期と考えている。（原田）
- これからの世代を担うこどもたちにも読んでもらうことが重要。専門書とうよりもう少し柔らかいイメージがよい（松井）
- 宮沢賢治の「狼森と笊森、盗森」という本が好き。木が語る言葉を理解できる人が、森の中を歩いている時に、木が人間に話しかけてくる本があると素敵。木の言葉を聞きに森の中に行ってみたくなれるとよい。（洲崎）
- これまでに人間が行ってきた近代化や、木の話しでいえば密閉化された構造物などの解消に取り組むなど、今一度見つめ直していくことが必要だと思う。（長澤）

☆出された意見を発展的に楽しく木づかいガイドラインに活かせるように考えてみました

原点3の意見からどんな視点からガイドラインを作成するべきかの多くのヒントがあります

① 音の風景という美しい考え方が述べられました。季節の移ろいの中で森や山の中に響く音の情景に出会えるような視点を盛り込みたいと考えます。
② 木のざわめき、木造建築物の減少など、木の良さや価値を忘れてきてしまった感があります。それを再認識させるような視点が必要と考えます。
③ 木の匂いや癒される絵が嗅覚や視覚にも効果的という考えがありました。木の部材や絵・画像の取り入りを検討したいと考えます。
④ 木造校舎が懐かしいという意見がありました。むしろ、これからは最も原点的な木造校舎の建築を推進していきたいと考えます。
⑤ 日本を始めとする森林の現況や重要性について、日常生活の中ではわかりにくいので理解できるような内容がほしい、との意見がありましたが、正に流域内の各森林でこの森林では何を理解してほしいのか、ということがわかるようにガイドできると良いと考えます。また、木の性質についても、木の科学実験等を通して理解できるような教材や方法をガイドしたいと考えます。
⑥ プロが知っているマニアックな内容は引き付けやすい、との意見がありました。本物の技には人を魅了する内容がありますので、その技能を持った人との出会いを重視したいと考えます。
⑦ 森の不思議さをドラマやアニメから知ったという意見がありました。言うまでもなくトトロのようなアニメやキャラクターには、わくわくするような魅力があります。私達の身近な森で子供たちにキャラクターを考えてみてもらうのはどうでしょうか。
⑧ 魚釣りで釣れそうな雰囲気がわかると心がわくわくして、心にスイッチが入るという意見がありました。私達が森や木づかいの面でわくわくするような場所や時間・活動をたくさん見つけたいと考えます。
⑨ 学校は学問を教えるところではなく、感性を教えるところである。その点において、コンクリートという人工物で建築されている校舎には、見直すべき点があるという意見がありました。今後、教育関係における校舎については、木づかいガイドラインでも木造化に向けて最もマークすべきテーマであると考えます。
⑩ これからの時代を担う子供たちにも読んでほしい、専門的でない柔らかなイメージも欲しいという意見がありました。今回のガイドラインは専門的な魅力の他に、市民目線やライフステージを基本に森や木の世界に誘うという面に特徴を持たせたいと考えます。子どもたちや青少年、大人に感覚的に木や森は素敵だな、と思わせることがポイントであると思います。

⑪ 木が人に語りかけたり言葉を理解したり、木の声を聴けるような感性を育てたい、という意見がありました。そのような場面を見つけたり、つくることができたら素敵です。「夕陽や夜景や木を仰ぎ見るための小屋」に出かけて、森や木の声を聴きたいと思います。

⑫ 近代化によって見落とされている木の本来的な魅力の再発見が求められているという意見がありました。あらゆる場面の森や木を見つめ直すことが問われている気がします。

10 月 21 日　第 13 回　山部会　ブレーンストーミング意見

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインについては、検討する時間が不足してしまったため、ライフステージ別に整理したアタック表についての意見を次回までに考えてもらうことになりました。

11 月 9 日　第 14 回　山部会　ブレーンストーミング意見

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインについては、ライフステージ別に整理したアタック表をもとに話し合いをしました。

話し合いの中では、表の中に現在行われている事例を入れてみる、対象として、素人山主や購買層を追加する、木工製品をつくる人との連携を図るなどの提案が出されました。

- 赤ちゃんから対象になっているのがいい。木のおもちゃで遊んだ人の方があそびの工夫ができ、リーダーシップにつながっている例がある。（松井）
- 対象に素人山主も追加し、山に関心を持ってもらうきっかけになればいい。（丹羽）
- 表の中に具体的な事例を入れていくといいと思う。その中で不足する部分も見えてくる。（丹羽）
- 購買層もターゲットとして重要ではないか。（長澤）
- 恵南森林組合では、定年者を対象に木工クラブとして製材所を開放してきたが、参加者があまり広がらなかった。人口が多くないと難しいのではないかと感じた。（大島）
- 自分が森に入ることはハードルが高いので、木育や木工製品との関わりをつくることが先決。しかし、矢作川で販売されているものは、丸太材であり、木工製品をつくる人との連携が重要ではないか。（蔵治）
  - 木育は大切であり、この地域でしかできないという概念をアピールしたい。（今村）
- ガイドラインで取り扱うものは、木づかいだけでなく、森づかいということだと思う。日常でできることと、現地に行かないとできないことに分けられる。（城田）
- 豊田市では、セカンドスクールが大人気。田舎でできる普通のことが楽しまれている。（洲崎）

☆出された意見を発展的に楽しく木づかいガイドラインに活かせるように考えてみました

ライフステージアタック表に対する意見からどんな視点からガイドラインを作成するべきかの多くのヒントがあります

① ライフステージのスタートは赤ちゃんとしていますが、木との出会い、自然素材との触れ合いという感度は、大切と思われます。ここから、しっかり基礎を固めて段階的に木の世界を歩ませたいと思います。森の民は、子供にまずどのように木を教えるべきなのでしょうか。その哲学や感性、まなざしのポイントは何でしょう。シンプルな木の材料で例えば、橋づくりをする時の工夫や、仲間との協調性や集中力、段取の中で生まれるリーダーシップ発揮の必然性が容易に想像できます。

② 素人山主も仲間に引き込めると考えられます。というのは、山の楽しさを教えてあければ、自分の山が活かせるからです。森と木の素敵な時間を手にすることができる最有力候補でしょう。長野県では以前「森林づくり人材育成講座」という日曜日に県民が行う山仕事講座を行っており、それなりきに人気がありました。流域各地で行えれば、両ガイドラインの目玉的な活動になるのではないでしょうか。

③ ライフステージアタック表の中で、すでに実践できている部分もあると思います。もう少し議論を進めて表を整理し、森づくりや木づかい最前線の方を仲間に入れてグループによるワークショップや、魅力的な森やお店・工務店巡り・試行的な木づかい市民活動を実践し、ライフステージアタック表の活動項目にしたいと考えています。もう、次の段階はここまできていると考えます。

④ 購買層的な市民の参加は、私達の活動がひとりよがりにならないためにも、また、ポイントや視点を外さないためにも必要と考えます。仲間にモニター的なファミリーが参加していただくと面白いと思います。

⑤ 定年退職者を対象とした「木工クラブ」は余り人気がなかったとのことでした。例えば岐阜県清見村「オークビレッジ」で出版している大工マスター本などは、それに従って木工品を作成していく内に次第にレベルが上がるように考えられている素晴らしい本ですが、あまり知られていないと思います。地域材で教材を作ってチャレンジできるような教本・教材・指導者付きの３点セットでトライしてみてはどうでしょうか。

⑥ 木の最前線の人たちとの出会いについては、その場所に行って、その人に会って、そこの雰囲気やアイテムでないと楽しめない、というものは多いと思います。例えば、それだからこそ価値のある木工クラフトマンや材料を提供していただける事業体、工務店や建築士など、木と共に生きている方は山里や町に点在しています。スギダラやヒノダラな方も含め、その方々をこの森づくり・木づかいの仲間に誘いたいと思います。根羽村でも「手仕事祭り」を開催したところ、その参加者は全国から 300 人にもなりました。このような方々とリレー形式で、地域ごとにアクションを起こしたり、地域の森林所有者、作り手、木のユーザーが輪になることは、計画的に取り組めば難しくはないと思います。例えば、小さな自分の小屋づくりによる活動拠点づくり等から、楽しく木の世界を始められると思います。

⑦ 根羽村のトータル林業のコンセプトにおいて、一本の木を無駄なく使う、ということがあります。現在は、幹を建築部材や家具に、樹皮や末木を燃料に、製材の端材を燃料か教材かアウトレット商品か弁当箱に、オガ粉を燃料に、葉をアロマオイル

に、枝を森林土壌かロケットストーブ燃料に、山の未利用材を木の駅プロジェクトで薪に、山でのはね出し材をアウトレット商品に、と多様な利用を実践、もしくは試行しています。例えば、山側からこうしたプレゼントを行うことで、木のファンは確実に増えると考えます。山の景観整備による森の美しさで人を呼んできてもらい、森の民がその里で、様々な木のプレゼントによる木のファンづくりに励み、木の魅力や木と共にある生き方を伝え、その活用の可能性を見せてあげるのは、とても素敵で良い時間と考えます。

ガイドライン作成　今後のパートナー

市民からの目線を確保して、ライフステージごとの取り組みを意識しながら木づかい推進を図るため、木づかい最前線の方々を仲間に取り込みたいと考えます。

① 林業普及指導員（愛知・岐阜・長野の各県から）
② モニター的市民
③ 素人山主
④ 工務店
⑤ 建築士
⑥ 木工品店
⑦ 木工クラフトマン
⑧ ナイス等木材流通業者
⑨ 道の駅
⑩ アウトレット商品取扱店

根羽村の取り組みによる参考事例

市民の視点から実践する木づかいガイドラインライフステージアタック

① センス・オブ・ワンダー（自然の神秘や不思議さを魅力的に感じる心）
- 山の朝の静けさと一体になる
- 山の夕陽に充足感や安らぎを感じる
- 山の木のそよぎや流れる雲と旅をする
- 沢の水くみで清らかさを感じる
- 頂上で魂を解放する
- 山の音を数えて心を無にする
- 大木に触れて聴く　寝そべって見る　夜見る
- ツリークライミングのどきどき感に打たれる
- 淵の深さと水の色に誘われる
- ドラム缶風呂の一人の時間の中で梢と高い空にとける
- 月夜の晩や青い夜にたたずんで時を忘れる
- 山の陽だまりで落ち葉を踏んで身軽になる
- トレイルランで光を感じる

・ボルダリングで肉体と対話する
・四季の移ろいを心に招く

② 山仕事

・植樹
・森林整備計画
・境界巡検
・森林成立本数調査
・立木材積調査
・オーダーメイドの山・森林づくり
・間伐
・枝打ち
・造材
・搬出
・木の駅プロジェクトによる未利用材の薪利用
・薪わり
・ロープワーク
・チェンソーワーク

③ 木工作

・表札づくり
・木のペンダントづくり
・木はがき
・水鉄砲
・流しそうめん
・木の階段（歩道・ドラム缶）
・弓矢
・丸太イス
・丸太プランター
・家具づくり
・ウッドデッキ
・木の札作成

④ 木の科学実験

・びんの中に木を封印
・木の含水率測定実験
・木の水分吸い上げ実験
・木の葉のにおい比べ
・アロマオイルづくり
・水源かん養機能実験
・木の橋づくり

・グレーディングマシンによる木材強度測定
・JAS 製品目視等級による格付け

⑤ 林業成立論や木と共に生きる喜び・学び・成長・哲学・知的財産
・矢作川流域森林現況論
・矢作川流域木材利用現況論
・木育・里山哲学論
・伐倒・造材・搬出・作業道開設論
・トータル林業論
・事業体経営論
・山の担い手人材育成論
・技能習得向上論
・山村定着論
・山村幸福論
・山村生業論
・森林資源育成論
・森林資源活用論
・都市と山村交流論
・木材利用市民活動論
・獣害対策論
・遊休農地活用論
・里山資本論
・家づくり物語論
・森林生態・森林水文学
・樹木学
・木造建築論

⑥ 体験
・地域食材体験
・山仕事体験
・山づくり体験
・森林評価体験
・木工作体験
・収穫体験
・農作業体験
・狩猟体験（狩猟談義）
・住宅見学会、建築士トーキング、魅力的な木の住まい巡り
・建て方体験
・森のハンモック体験

・森の中のドラム缶風呂体験
・大流しソーメン体験
・木材市場丸太検知体験

木づかいのはじまり　根羽小５年生　端材を教材にして橋づくりにチャレンジ

集中力・チームワーク・リーダーシップ・人の輪・木への親しみ・木組みの面白さ・再現性・将来での指導性

ブレーンストーミングの結果による木づかい推進の考え方

①ブレーンストーミングの結果、市民が主役となって生活の中で自然に木づかいを推進してもらうためには、市民のライフステージに合わせた取り組みが必要と考えられる。

②特に、年少の頃の自然との触れ合い等の原体験が、今後の自然観や森や木や水への関心度を高めることに対して、極めて重要であることが共通認識されているので、年少時からの木づかい推進の関わりを重視したい。

③矢作川流域ならではの森や木と水と共に人生を楽しむライフスタイルをまず、市民生活の中において意識化（矢作川ディズ）させ、産官学の連携によって、中でも森林づくりや木づかい推進を特に意図しながら進めていきたい。

④市民のライフステージをベースにして多岐に渡る木づかい推進項目を整理し、各項目ごとにフォーマットを決めて検討を進めることで、テーマの絞り込み・集中化・関連する関係者の招集・ワーキング活動がやりやすくなると考えられる。例えば、今回のテーマは、Ａ－アー①という具合に。山部会での様々な木づかい推進アイデアを各ライフステージに盛り込んで形にしたい。

⑤推進項目のフォーマットが決定できれば、パターン化による電子媒体化・電子本・共通ホルダー化の作成も検討したい。場合によっては、市民からの情報収集も行いたい。

⑥市民が実践しているフリーペーパー「耕ライフ」誌のセンス・コンセプトを活かして、多岐に渡るテーマから順番にテーマを決めて、ポイント的に紹介して「矢作川ディズ」の見える化と推進を図りたい。

⑦推進項目やライフステージの区切りについては現行のイメージ（案）をベースに、ブレーンストーミングにより整理したい。

⑧ガイドラインの作成を進めるにあたり、森づくり・木づかいの最前線の方々の参加によるワークショップを実践したい。その方々の現行の取り組みやワークショップの取り組みをライフステージアタック表に整理して組み込むだけでも、矢作川流域オリジナルとなるトータル的な木づかいガイドラインが作成できると考える。

⑨各県の林業普及指導員が参加してくれることにより、森づくり・木づかい推進の各県の共通項目による情報収集・人の輪づくり・行政提案・活動実践がやりやすくなると考えられる。各県の指導員の密な連絡・連携体制を期待したい。

矢作川ディズ　木づかいガイドライン　ライフステージアタック表（イメージ案）

矢作川ディズなライフスタイルを確立するためのライフステージアタック対象	ライフステージの特徴	市民編A 森や木と水と共に人生を楽しむライフスタイル矢作川ディズへの誘い さぁ～しよう	行政編B 木づかい推進に向けた社会環境・システムづくりと矢作川ディズへの支援	業界編C 楽しい矢作川ディズの演出や木の製品提供とそのことによる持続可能な地域産業・生業の確立	研究編D 木のすばらしさを伝えて木づかいを進め、森林や矢作川の持つ役割の大切を普及させる
ア 赤ちゃん～ 保育園の入園前 対象者数	人生のはじまり 木のぬくもり 三つ子の魂 100までも	① センス・オブ・ワンダーの大切さを理解しよう ② 木のぬくもりで育児をしよう ③ 家族で自然の息吹を感じよう ④ 安心して野外で遊ぼう ⑤ 記念植樹をしよう ⑥ お母さんに読んでもらいたい本	① お父さんと母さんと赤ちゃんのための優しい緑の散歩道づくり ② お父さんとお母さんと赤ちゃんのための優しい緑の公園づくり ③ 子供とお父さんおかあさんが過ごしたい木と緑に囲まれた憩いの空間づくり	① 子供の安全な子育てに配慮したベビーベッド ② 安心して使える木の食器 ③ 木のおもちゃの提案 ④ お風呂に浮かべる木の玉プレゼント ⑤ 小さな子供さんに配慮した緑陰樹を植える	① 幼児期における木との触れ合いがもたらす効果 ② 幼児期における緑の空間がもたらす効果

イ 保育園児 対象者数	人生のはじまり 木のぬくもり 三つ子の魂 100までも 五感の発達	① 自然を感じてみよう ② 木で遊ぼう ③ 木と森の物語を楽しもう ④ 子供と楽しもう	① 木造保育園の設置 ② 身の回りの木造製品の施設設置 ③ 窓辺を覆う緑のカーテンづくり	① 木造保育園モザイク床パネル ② 保育園児のための積み木のプレゼント（針・広の樹種）	① 木造校舎が児童に果たす様々な効果 ② 保育園児の好きな形・玩具の研究
ウ 小学校 対象者数	感受性の高まり 自我の芽生え センス・オブ・ワンダー 人間関係の構築（仲間に対する信頼・友情等） 自分の力の認知	① 自然を五感で感じてみよう ② 自然観察をしてみよう ③ 君に教えるふるさとの木の四季の姿（マイツリーを見つけよう・植えよう） ④ 木の工作をしてみよう ⑤ 木の面白科学実験で木を好きになろう ⑥ ネイチャーゲームで楽しも	① 子供たちが入っても安全な学有林の設置 ② 先生のための木育指導ガイドブック（流域編） ③ 先生のための木育指導研修 ④ 先生のためのブックレビュー ⑤ 地元の木を使用した魅力的な校舎の建築 ⑥ 入学祝い・卒業記念にな	① 児童と先生のための山仕度セット（地下足袋・鉈・鋸セット） ② 地元の木を使用した魅力的な校舎の建築 ③ 木のキットハウスの提案（木の工作室） ④ 木と木を結ぶスカイウォーカー・ワイヤー滑り・ツリーハウス ⑤ 児童のた	① 自然との出会いがもたらす創造力・観察力・協調性の効果 ② 木造校舎が児童にもたらす情操効果 ③ 子供のための木の科学実験ガイドブック ④ 森の働きについての理解を高める教材づくり

		う ⑦ 森の中で秘密基地を作ろう ⑧ ボルダリングで岩を楽しもう ⑨ ツリークライミングで木を楽しもう ⑩ ツリーハウスを作ってみよう ⑪ こんな本を読んでみよう ⑫ 木と森の物語を楽しもう ⑬ 川に行ってプラナリアを見つけよう	る机・椅子セットのプレゼント ⑦ 少年たちに向けた地域と結びついた水と木と森の物語の創作 ⑧ 小学校の授業に山の授業を導入 ⑨ 地下足袋を揃える	めの丸太・木材プレゼント ⑥ 端材を活用した教材キットの開発	
エ 中学校 対象者数	思春期	① 木の名前と特徴を知ろう ② 仲間と海から水源（逆も可）を目指す流域の旅に出かけよう ③ 流域の面	① 森と木に親しむ中学生のためのチャレンジ読本の創刊 ② 森と木に親しむ技能ブックの紹介 ③ 大工と建	① 児童と先生のための山仕度セット（地下足袋・鉈・鋸セット） ② 地元の木を使用した魅力的	

		白い場所を見つけよう ④ 自然の中でチャレンジしてみよう ⑤ こんな本を読んでみよう ⑥ 山づくりのプロの技を見よう	てる木の家と内装 ④ 森と川と共に生きた人々を学ぶ	な木造小学校の建築 ③ 木のキットハウスの提案（木の工作室） ④ 木と木を結ぶスカイウォーカー・ワイヤー滑り ⑤ 児童のための丸太・木材プレゼント	
オ 高等学校 対象者数	人生の選択	① 矢作川流域圏懇談会の調査に参加してみよう ② 身近な里山を活用するプランづくりをしてみよう	① 緑と川と共に生きていくライフスタイルの提案 ② 木と緑と川の最前線で働く卒業生に今の職業を聴く ③ 地域づくりを目指す若者のためのふるさとの自然を教	① 私達の木と緑の職業案内 ② 地域を活かした地域産業ガイダンス	① 木と緑と川のための新たな研究者を求めるガイダンス

			える行政主導のガイダンス		
カ 大学 専門学校 対象者数	自我の確立	① 森や木や流域に対するテーマを見つけてみよう ② 地域社会の改革にチャレンジしてみよう ③ 遊休農地・里山活用にチャレンジしてみよう ④ 地域で活躍している人たちに会いにいこう ⑤ マイチェンソーを持ちましょう	① 学生の研究や起業チャレンジのためのフィールド提供	① 各県の林業研究機関と連携した木質化推進テーマ研究	② キャンパス内の木質化・都市部等の木質化に関する研究 ③ 水源地域での大学演習林設置による市民に向けた森林学習
キ 就職 対象者数	社会人	① 自分の職場環境で木づかいを進めてみよう ②	① 就職記念の木のフィールド提供 ② 企業による毎年恒例記念植樹・緑の	①木と共に暮らす様々なアイテム	

			回廊づくりの場の提供		
ク 市民・社会人 対象者数	ライフスタイルの確立	① 地元の木で家を建てよう ② 木のお店へ出かけてみよう ③ 木の木陰を見つけて散歩やサイクリングをしよう ④ 森や源流を訪ねて四季を楽しもう ⑤ 暮らしやすく魅力的な自然環境をつくろう ⑥ 身近な里山で母樹を見つけよう ⑦ 地域材住宅の見学会に出かけよう ⑧ 木の住まいを考えるにはこんな本を読んでみ	① 市民や公共施設の木づかいを推進する様々な制度と支援策 ② 木づかいを推進するための業界と研究機関との連携やシステムづくり ③ 木づかいによる公共空間づくり市民活動スギダラ ヒノダラ 広ダラ 矢作川の実践 ④ 木と森と田舎との出会いバスツアー交通費支援 ⑤ 田舎の親戚制度で田舎を持	① 地元の建築士・工務店による様々な木の住まい提案 ② 様々な木の製品を扱うお店からの住まい提案 ③ 各社の快適住まい最新提案 ・ 断熱 ・ 結露 ・ 防水 ・ 温度・湿度調整 ・ 防音 ④ 広葉樹の利用編 ⑤ 径級別建築部材確保による建築部材の共通化 ⑥ 木材利用ポイント制度の普及	① 木の住まいの魅力を伝える様々な科学的データ ② ウッドマイレージの考え方による国産材の普及 ③ 木造公共施設の低コスト建築方法

		よう ⑨ 里山の哲学と知的財産に会いに行こう	つ ⑥ 木材のパイロット価格制度導入による木材の安定供給		
結婚 対象者数	旅たち	① 記念樹を植えて木と共に生きよう ② 木の住まいを検討してみよう ③ ライフプランを考えよう ④ 素敵な木の教会での挙式 ⑤ 森に祝福される日	① 木づかいによる結婚式の素敵な演出・支援措置 ② 結婚記念林の設定	①木の結婚記念品の開発	
出産 対象者数	家族			① 木の出産記念品の開発	
マイホーム 対象者数	家族の和 生活拠点				
増改築 対象者数	住まいの補修	① 現在の住まいを木造にしてみよう ② 室内の内装に木を使ってみよう	① 木づかい推進のための増改築支援		

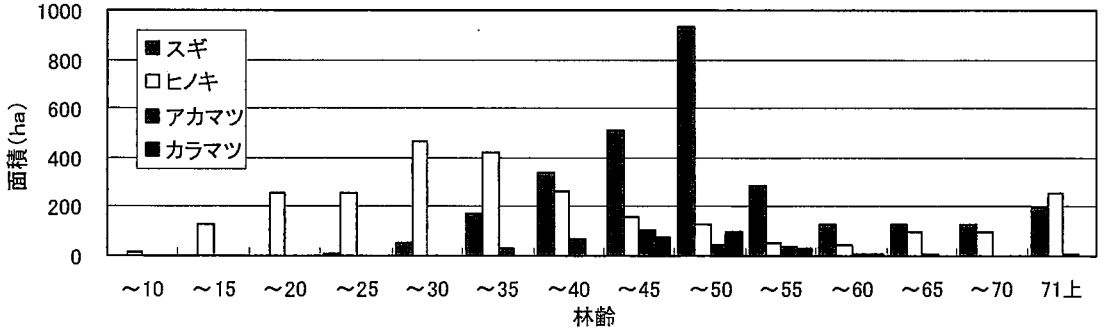
セカンドハウス対象者数		① 仲間と集まる家を建てよう ② 里山サロンを作ってみよう ③ 遊休農地でクリエイティブな農業にチャレンジ	① 市民による木づかい推進・地域づくりのための活動拠点施設支援 ② 遊休農地活用と結び付けた里山活動拠点施設 ③ 田舎の親戚制度の創設	①小さく住まう住宅提案	
市民・社会活動対象者数	森づくり・木づかいを通しての人生の楽しみ	① 皆が集まる公共空間を木と緑の憩いの空間に変える ② 木づかいや流域を愛する気持ちをつなげ絆を高める矢作川ディズ駅伝（海から水源（1日目、水源から海2日目水源から海）をや			① 森の健康診断の結果報告 ② 木づかい推進による持続可能な地域づくりは可能なのか

		ってみよう ③ スギダラ・ヒノダラ・広ダラ矢作川運動の推進			
人生の達人 対象者数	後世にスピリットを伝える 後世に技術・技能を伝える	① 森づくりやその歴史を語ろう ② 自慢の我が家を紹介しよう ③ 森や木や矢作川の流れと共に暮らした良き日々を語ろう ④ 人生の達人者のお話を傾聴しよう	① 地域文化の発信施設	② 技能・文化の継承 ③ 達人が伝えたい森・木づかいの場	① 偉人達の足跡を後世にわかりやすく伝える

根羽村間伐実績

年度	間伐面積 (ha)							内、間伐材搬出面積 (ha)	間伐材搬出材積 (㎥)
	森林造成等	治山保安林	融資	緑資源公団	村単独	その他	合計		
9	274.39					2.30	276.69	15.68	1,176
10	272.92	8.45				8.34	289.71	7.00	525
11	275.64	5.84	5.20		4.62	0.82	292.12	2.53	190
12	250.36	25.30		60.26		6.09	342.01	1.73	130
13	357.47	101.79				5.60	464.86	6.63	497
14	555.63	37.53				5.53	598.69	26.11	1,958
15	483.29	26.20			14.25	8.43	532.17	31.79	2,384
16	329.93			8.64		5.95	344.52	36.89	2,767
17	415.76	84.16		4.00		18.00	521.92	44.55	3,341
18	392.61	90.77		15.62		2.56	501.56	39.97	2,998
19	346.49	32.62		12.50			391.61	61.15	4,586
20	230.49	76.94		56.66			364.09	60.17	4,513
21	226.46	24.24		25.61	25.62	15.69	317.62	59.60	4,470
22	265.37	26.62		9.72	27.33	22.62	351.66	57.09	4,282
23	166.23			7.93	6.00	12.67	192.83	49.88	6,031

間伐材搬出材積は各年度の根羽村森林組合総会資料による。



樹種別林齢構成(2007年現在)

明治用水土地改良区造林事業の概要

明治用水は、矢作川から取水し、西三河 8市 6,399ha の農地をかんがいするとともに、幹線水路などを供用し、工業用水・上水道の通水もしており、西三河地方の命の水となっています。

その水源である矢作川の流域において造林事業を行い、水源涵養に努めています。

1．事業の経過

造林事業は、明治41年6月から始めた。明治39年9月に明治用水普通水利組合（本土地改良区の前身）の組合会議決をうけ、東加茂郡下山村大字羽布が所有する道福内の山林（羽布植林地）に90カ年の地上権を設定して始めたのが最初である。

この造林事業の性格は、組合財産の管理法として行われたもので、水源涵養としての意義は少なかった。

その後、大正3年になって組合は、新たに組合財産をもって長野県下伊那郡根羽村地内の山林（根羽造林地）を買入れて大規模な造林事業を始めた。

これは羽布造林と同じく基本財産の管理を目的としていたが、明治用水に直接関係した矢作川の水源涵養に大きな意義を持つものであった。

しかし、組合が山林を買収して造林事業をすることについては、反対も少なくなかった。

かんがいに関する事業を目的とする用水組合にとって、山林買収は職務を逸脱するものだという考え方もあり、組合管理者らの「水を使うものは、自ら水を作るべきだ。」という、水源涵養の遠大な意図は、すべての人々にたやすく理解されることはなかった。

このため、明らかに水源涵養策という意味を強くもっていたのに、やはり財産管理を目的として掲げていたのは、こうした反対に対する配慮であったようである。

この財産管理の方法は、特に太平洋戦争後のインフレ期に銀行預金、有価証券などの組合財産は、いずれも実質価値を大きく下落させたのに対し、山林は確固たる財産であったことにより、それが確実な方法であることが明らかになった。また、戦後矢作川沿岸の広大な皇室御陵林払下げが伝えられたとき、組合は水源涵養林として払下げ願い書を宮内大臣に提出したが、結局払下げは行われず組合の大きな抱負は、実現をみなかった。

2．事業の目的

基本財産の増殖及び水源涵養のため（山林管理規定第１条）山林の育成を行っている。

3．造林地の概要

造林地名	面積	所在	水系	保安林指定	樹種	摘要
根羽	ﾍｸﾀｰﾙ 427.33	長野県下伊那郡根羽村	上村川	水源涵養	ｽｷﾞ・ﾋﾉｷ ｶﾗﾏﾂ	大正３年11月購入
平谷	36.12	長野県下伊那郡平谷村	上村川	水源涵養	ｽｷﾞ・ﾋﾉｷ	昭和62年３月購入
羽布	54.89	愛知県下山村大字羽布	巴川		ｽｷﾞ・ﾋﾉｷ	明治41年～平成10年まで90年間の地上権
有間	2.88	愛知県旭町大字有間	介木川	土砂流出防備	ｽｷﾞ・ﾋﾉｷ	昭和５年８月購入
小渡	3.46	愛知県旭町大字小渡	矢作川	土砂流出防備	ｽｷﾞ・ﾋﾉｷ	大正15年購入 昭和35年購入 昭和59年購入
計	524.68					

「ふるさとの森」分収育林事業概要

目　　的　　根羽村の美しい自然の中で都市と山村の人と人とのふれあいの場を持ち、林業の振興を図りながら、自然と生活の調和を基調とした活力ある村づくりを目的とする。

事業内容　　根羽村有林 10.00 ha に植栽されている 65 年生のヒノキ（一部スギ・マツ）の人工林を評価し、森林の造成に要した費用を根羽村と会員が半額づつ出し合って共同経営を行い、30 年後に伐採をし、その収益の半額を会員に支払う。

期　　間　　昭和 63 年３月～平成 30 年３月

費用負担額　　１口　60 万円

会員人数　　145 人　150 口

持分割合　　村 1/2　会員 1/2（150 口）

管　　理　　村の負担

保育計画　　間伐　平成 10～12 年　　主伐　平成 29 年　　巡視　毎年

会員特典　　①村の特産品を年１回配布　（30 年間）

②根羽川入漁券１枚配布　（30 年間）

③３年に１度会員の集いを催し、会員相互と村民の交流を行う

契約者の内訳　　愛知県 106 名（71%）　長野県 30 名（20%）　その他 14 名（9%）

60 歳以上 13 名　50 歳代 12 名　40 歳代 31 名

30 歳代 34 名　20 歳代以下 60 名

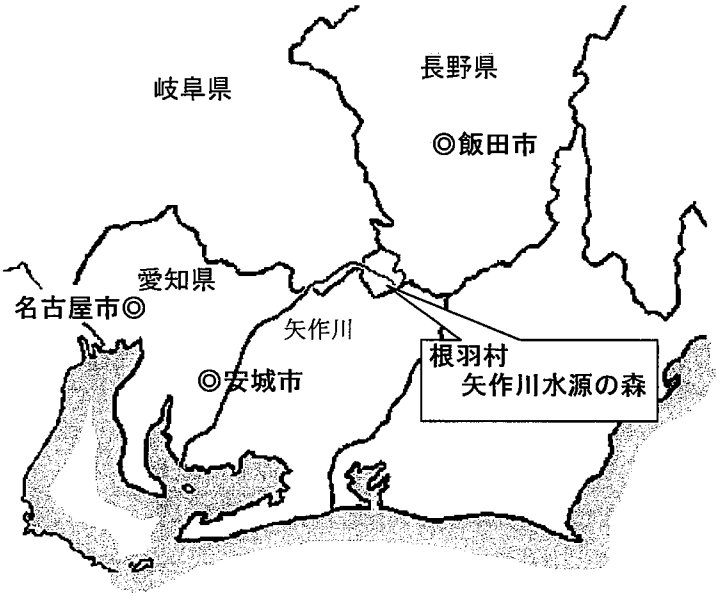
動　　機　　会員になろうと思った動機についてアンケート調査した結果「資　　産づくり」としての回答のある一方で「水源や国土保全に協力したい」や「田舎とのつながり」と答えたのが過半数を占めており森林が果たす様々な役割に対する意識の高いことを示すものであった。

矢作川水源の森

安城市との分収育林事業

「矢作川水源の森」の概要

所 在 地　長野県下伊那郡
　　根羽村 3370 番地 1
面　　積　48.21ha
樹　　種　ヒノキ 65 年生
経営形態　分収共有林
　森林の管理費及び立木の販売収益
　は根羽村・安城市それぞれ 1/2
期　　間　平成 3 年 12 月 6 日～
　　平成 34 年 3 月 31 日
(30 年間契約) 30 年間伐採しない
契約対象樹木（昭和８年植栽）



　　ヒノキ　41,587 本
(73%)　7,395・(59%)
　　サワラ　10,969 本 (19%)　3,248・(25%)
　　その他　4,717 本 (8%)　1,974・(16%)
　　計　57,273 本　12,617・
金　　額　108,665,000 円（契約対象樹木に係わる安城市の取得価格）
　36,154,875 円（地代 30 年間分一括払い、・当 5 円×（428,065・÷2）×30 年）
　計　144,819,875 円
持分割合　根羽村 1/2　安城市 1/2

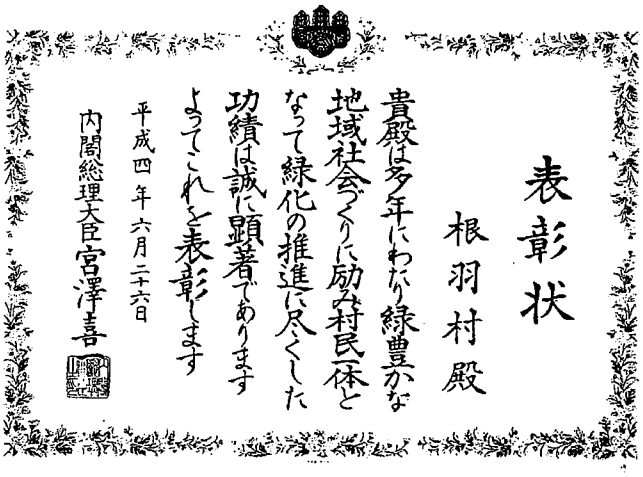
「矢作川水源の森」の経歴

この森林の昭和８年に植栽された官公行造林地で平成３年度に伐採予定となったが、矢作川流域にとっては貴重な水資源の役割を果たしており、村では伐採の延期を申請したが、営林署(林野庁) ではそのような制度がなく、保護育成のためには村で立木を買い取る以外に方法がありませんでした。

しかし国や県に対象となる助成制度もなく、村単独では財源的に困難なため、以前から交流の深かった安城市に協力を要請。

その結果、立木取得費１億 5000 万円を安城市が負担していただけることになり、矢作川上流の水資源の確保と森林保育育成を目的とした「矢作川水源の森」の分収育林として、30 年間根羽村と安城市が共同管理していくことに合意しました。

「森林整備協定」全国第1号


表彰状

根羽村殿

貴殿は多年にわたり緑豊かな地域社会づくりに励み村民一体となって緑化の推進に尽くした功績は誠に顕著であります よってこれを表彰します

平成四年六月二十六日

内閣総理大臣 宮澤喜一

上下流の自治体が協力し合いながら、上流域の森林整備を行おうとするこの協定は、平成３年度に森林法に新たに加えられた「森林整備協定」に基づくもので、全国で第１号です。こうした取り組みが評価されて、翌年に緑化推進運動功労団体として内閣総理大臣賞を受賞しました。

水を通じて上下流連帯と交流

矢作川は、源を長野県の茶臼山(1,415m)に発し、長野県・岐阜県・愛知県の３県にまたがる大河です。本流延長は117kmで、大小19の支派川よりなり、流域面積1,830・は全国第35位に当たります。

矢作川は、古くは上流域から山の幸、下流域からは塩や魚などの海の幸などの運搬のために、また、近年は流域134万人の飲み水をはじめ、農業・工業・発電などに利用され、私たちの生活にとってかけがえのない存在です。

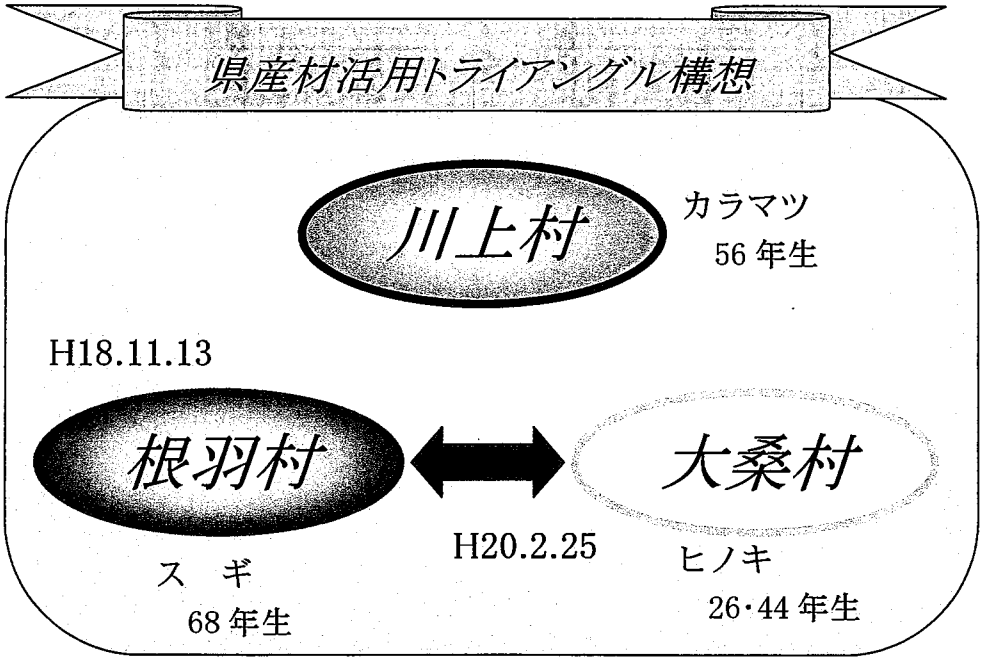
上流において乱開発が行われれば、水質の汚濁、災害の発生が起こり、私たちの生活に大きな影響を及ぼします。

矢作川流域の市町村ではこうした課題を、水を利用するすべての自治体の問題と捉え、「矢作川水源の森」分収育林事業のほか、「矢作川流域機構」、「矢作川沿岸水質保全対策協議会」、(財)矢作川水源基金など一体となって水を守り、お互いに発展していくために交流活動なども活発に行われています。

[矢作川水源の森]

県産材活用トライアングル構想

事業の主旨

日本社会が循環型社会を構築していく上で、長野県は森林県として木材資源を安定的に供給、利活用するという大きな責務を担っています。また、平成17年1月に施行された「長野県ふるさとの森林づくり条例」で22世紀に目指す森林の姿・森林社会を具現化するために、信州の木の利用は大きな課題となっています。長野県は、東西南北に離れているため、植生も多岐にわたり、長野県産材の樹種による長所を生かして、適材を適所に供給できる環境にあります。しかしながら、現状はカラマツ、スギ、ヒノキ等がそれぞれ分離され生産販売されており、エンドユーザーの立場に立った流通体制の整備が必要とされています。

こうした背景のもと、平成18年11月13日に、スギの産地である根羽村と、カラマツ産地である川上村が、相互の信頼と尊敬を礎として、これまでの友好関係と両村の林業振興を図るため、お互いの村有林を交換し「信州の木」のブランドを確立させ、需要に即した供給体制づくりを行うため、「村有林交換盟約書」の調印を行いました。また、平成19年12月6日には川上村と、ヒノキの産地である大桑村が「村有林交換盟約書」の調印を行いました。今回根羽村と大桑村が「村有林交換盟約書」の調印を行う事によって、長野県内における「県産材トライアングル構想」が実現する事ができました。これを契機として、木材流通体制の整備や様々な住民交流が促進され、元気な地域づくりに大きな拍車となるものであります。